＜各駅停車＞津波と大川小の映画

2023年8月13日 07時30分　東京新聞

東日本大震災に伴う津波で児童七十四人が犠牲になった宮城県石巻市の大川小学校。遺族を記録した映画「生きる　大川小学校　津波裁判を闘った人たち」を見た。

印象に残ったのは、市教育委員会と学校の責任逃れと隠蔽（いんぺい）の体質。各地のいじめ問題を取材した際、何度となく似たような体質を感じてきた。ただ、大川小は最悪のケースだったと実感した。

記者は震災の半年後、個人的に大川小を訪問した。当時勤務していた群馬県にも被災者たちが避難し、取材で寄り添うには現地に足を運ぶ必要性を感じたからだ。

校舎は荒れ果て、津波の猛威に圧倒された。仮設の祭壇に足が止まった。児童の遺体が見つからない母親の手紙が添えてあった。

「毎日ここに来ていても、さがせなくてごめんね。夢に出てくれないから寂しいよ。夢で会えたら、思い切りだっこしてあげる」

何度も筆跡を追い、黙想した。しばらくその場から動けなかった。映画の遺族たちを見て、この手紙を思い起こした。（菅原洋）